

2013年5月17日

日本維新の会共同代表・大阪市長
橋下徹様

抗議文

このたび貴職が「慰安婦制度は必要だった」と発言されたことを知り、大変怒りを覚え、また心を痛めています。

「銃弾が雨嵐（霰？）のように飛び交う」戦争が「慰安婦」を必要とするという発想は、女性の人権の蹂躪です。暴力が支配する戦争という状況の中で、軍隊という暴力装置を慰安するために女性を道具として使うことは、人間としての道を踏み外した行為です。必要なのは「慰安婦」ではなく、戦争を起こす動きに抗う人間の勇気であり、戦争を起こさせない人間の叡智ではないでしょうか。

また、沖縄の米軍司令官に「風俗業を活用してほしい」と進言したことですが、例えば韓国の基地村で働く、いわゆる「風俗業」の女性たちに対する米軍軍人の凄惨な性暴力の実態を知った上での発言なのでしょうか？戦争中、兵士による強姦事件を防ぐために慰安所を設けたことは、かえって強姦の頻発を招いたという事実をご存知なのでしょうか？更に、米軍基地によって日常的に被害を被っている沖縄の人たちが、この発言を喜ぶとでも思っておられるのでしょうか。

私たち「神戸・南京をむすぶ会」は、これまで16回、中国の南京を初め日本軍の侵略の跡地を訪ね、日本軍による性暴力の被害者の方々にお会いしてきました。そのうちのお一人、山西省に住んでおられる万愛花さんは、「慰安婦」の方々の証言集会で「私は慰安婦ではない」と呼びました。慰安婦という言葉では表しきれないさまじいまでの性暴力の被害者である万さんが、あなたの今回の発言を聞いたとしたら、どれほどの衝撃を受けるだろうかと考えるだけで胸が痛みます。

私たちは、今回の発言はあなたを行政の長とする260万大阪市民を辱めるものであり、国際的にも非難を浴びてしかるべきものだと考えます。今、多くの人たちが市長に抗議の声をあげていますが、その声を真摯に受け止め、歴史を学び直し、人権意識を取り戻していただきたいと心から願います。

神戸・南京をむすぶ会
代表 宮内陽子